

# 令和五年度初任行政研修の実施概要

公務員研修所では、令和五年五月一日から七月一四日までの間、八コースに分けて、総合職試験等で各府省に新たに採用された職員七六四人を対象とした初任行政研修を実施しました。本稿ではその概要をご紹介します。

## 公務員研修所

### 研修のねらい

初任行政研修は、本府省において主に政策の企画立案に従事することが想定される、総合職試験等による新規採用職員を対象としたもので、国家公務員としての基本的な心構え、基礎的素養を身につけさせること等をねらいとしています。今年度は、七六四人（うち女性二七六人）を対象に八コースに分けて実施しました。

### 地方自治体での実地体験と合宿研修を再開

コロナ禍において、令和二年度は入間の公務員研修所での一週間の合宿研修、令和三年度は八日間のオンライン研修、令和四年度は概ね二週間での通勤を主体とした対面研修とオンライン研修でした。本年度は、西ヶ原研修合同庁舎での通勤による一週間の対面研修に続き、全国の地方自治体、福

島・宮城で活動するNPO等の団体のご協力を頂き、二日間の地方での現場学習を四年ぶりに行うとともに、公務員研修所での二泊三日の合宿研修を三年ぶりに行いました。また、八コースを二回の機会に集約する形で、一日のオンライン研修を行い、公務員として仕事をする上での基本について次官級職員による講話を行い、政治と行政に関する基礎知識を得る機会を提供しました。

### カリキュラム設計の基本的考え方

コロナ禍で培ったオンライン研修のメリットを生かしつつ、全国一六九市町村と福島及び宮城の四団体の現場での様々な体験学習と、対面による講義、研修員相互の学びを充実させるカリキュラムにより、国民全体の奉仕者としての使命感の向上、初任行政官としての資質能力の向上を図ると

### 〔研修カリキュラムの具体例〕

第1週・オンライン (午前) (午後)

公務員の在り方
5/11 (木)
地方自治体実地体験等 全体説明 派遣先別打合せ
政治と行政

	5/22 (月)	5/23 (火)	5/24 (水)	5/25 (木)	5/26 (金)			
第2週・通勤 (午前) (午後)	開講式 オリエンテーション	コミュニケーション	国際行政の現場	班別討議④	特別講義			
	チームビルディング 研究班自己紹介					班別討議③	人権	班別討議⑥
	政策課題研究 基調講義							
班別討議① オリエンテーション	地方自治体実地体験等 自主研究・事前意見交換	公務員倫理を考える	中間報告、班別討議⑤	地方オリエンテーション				
第3週・地方・合宿 (午前) (午後)	5/28 (日) 移動・前泊 5/29 (月)	5/30 (火)	5/31 (水)	6/1 (木)	6/2 (金)			
	地方自治体実地体験	地方自治体実地体験	公務員研修所入所 オリエンテーション	班別討議⑧ (発表練習・質疑検討)	若手公務員の歩み			
	被災地復興・地方創生プログラム	被災地復興・地方創生プログラム	地方振り返り					
同上(現地泊)	東京に移動	班別討議⑦ (発表用資料提出)	政策課題研究 全体討議	研修総括・小論文作成 意見調査票記入 閉講式				



開講式の挨拶をする  
米村公務員研修所長 (当時)

ともに、府省を超えた研修員間の相互理解と信頼関係を醸成しました。今年の講義や討議では、社会のデジタル・AI化、こども政策、貧困問題、グローバル化への対応、社会の様々なセクターとの連携などの近時注目される課題も多く盛り込み、行政官としての仕事の在り方、公務員としての志、自身のキャリア形成などについて、多くの研修員と知り合いながら、深く意見交換ができるよう、多様なグループ編成を行いました。また、入間での合宿研修の機会には、研修員全体での懇親や交流が広がるよう、自主的な交流活動を促すような取組を行いました。

具体的な研修内容のご紹介

【第一週のオンライン研修】

○公務員の在り方

前半A～Dコースは大島一博厚生労働事務次官より、後半E～Hコースは新井ゆたか消費者庁長官より、長年の経験を踏まえた行政官としての心構えと研修員への期待について講話を頂きました。

○政治と行政

政策研究大学院大学の竹中治堅教授より、日本の統治機構の特徴、過去三〇年にわたる官邸主導への変化、国会と与党プロセス等について講義を頂きました。

【第二週の通勤研修、第三週の入間合宿】

○チームビルディング

通勤研修の冒頭において、二週間にわたって行政課題・政策課題の研究(後述)に取り組む班単位でのアイスブレイクと全体での一体感を醸成するゲームを行いました。(下欄上段の写真)

○行政政策事例研究、政策課題研究

東日本大震災、福島復興、消費税導入、長良川河口堰建設等のこれまで行政が取り



組んできた具体的な行政事例や、社会のデジタル化・AI化、外交、社会保障、防災などの府省共通の重要な政策課題を題材に、行政官OBや現役の幹部職員、研究者等からの講義を聴き、具体的な課題研究を二週間にわたって班ごとに討議を進め(右側下段の写真)、最後に全体での研究発表と質疑応答を行いました。これらを通じ、行政官として取るべき行動について多角的視点から考察しました。

※ 研修員の声

- ・物事を多角的に捉える重要性を感じた。様々な府省から集まり、多様な考え方や物の見方に触れて、視野が扩大到広まった。
- ・他班からの質問で、さらに政策の発展の可能性が見えるなど、切磋琢磨できた。
- ・議論を通じ、自身の思考が深められた。

## ○人権

人権問題に直面した方、様々な障害を抱える方、課題解決のために活動している方から体験に基づいた講義を聴き、我が国が抱える人権問題の現状を認識するとともに、人権に対する意識を高めました。一部コースではバーチャルリアリティーの機器を活用しての自分身として、臨場感をもって課題を理解する取組も行いました。(下写真)



## ○公務員倫理を考える

公務員倫理に関する法制的な規制内容の勉強ではなく、倫理学の知見を踏まえた班別討議方式による事例研究などを通じ、公務員としての倫理的な行動の在り方について検討し、実践への動機付けを図りました。

### ※ 研修員の声

・正しさとは何かについて、仲間との深い議論を通じて考えることができた。  
・自らの責任と判断を行うう難しさを感じた。

## ○コミュニケーション

職場において上司、同僚等と円滑なコミュニケーションを図るための効果的な手法、アクティブラーニングを通じたチームビルディングの考察、論理的なプレゼン能力の実践などを行いました。

## ○国際行政の現場

自衛官、JICA職員、国連機関職員の方々から現場に根差した講義を聴いた後、小グループに分かれての座談会や事例に基づく演習を行い、国際協力の在り方や国際社会において我が国に求められる役割について理解を深めました。

## ○市民との協働、特別講義

コースにより、地方創生や教育など特定課題に焦点を置いた講義や、貧困、子育て支援、難民等の社会課題に取り組むNPO等の方々や専門家の話を聞いて対話を行うことで、社会問題の背景、現状、今後の課題を学ぶとともに、市民社会と行政との協働について考察を深めました。(下写真: セッションの様子)



## ○若手先輩職員との対話

研修の最終日には、各府省の課長補佐級職員から、政策形成や関係者との調整の在り方、今後のキャリア形成に向けた話を聞き、職場で実践していくべきことなどについて議論しました。その後、行政課題を研究した班単位で研修全体を振り返り、今後二年間これらを踏まえて自らが取り組むべき目標・課題や、当面二年間の公務員生活の抱負について小論文をまとめました。

### ※ 研修員の声

・国益を守る最前線での国際協力や諸外国との友好関係を如何に築くかを学べた。  
・国際的な視点を学び、世界から見た日本の立場を考える良い機会となった。  
・社会課題解決のために取り組む同世代の起業家の想いに感銘を受けた。NPOとの協働を政策実現の手段として考えていきたい。  
・他省庁の先輩の話を聴き、今後の働き方、学び方、生き方へ大きな刺激を頂いた。職場に戻る大きなモチベーションになった。  
・コミュニケーションで何が重要か考える機会がこれまでなかった。伝える情報の適切な取捨選択ができるよう、訓練を重ねたい。

○地方自治体実地体験、被災地復興・地方創生プログラム

全国一六九市町村のご協力を頂き、三名又は四名のグループを編成して、研修員が地方自治体の現場を二日間訪問しての実地体験を行いました。また、研修員のうち九八名は、地方自治体実地体験に代えて、福島又は宮城で活動するNPO等の団体のご協力を頂き、被災地における復興の現状と課題を学ぶプログラムに参加しました。受入先の自治体又は団体の特色や実情に応じ、視察、活動体験、関係者との意見交換等を限られた時間の中でも幅広く行い、地域の実情や復興・地方創生への取組などについて現場ベースで理解を深めました。実地体験後は、公務員研修所での合宿研修において、異なる訪問先の研修員グループによる振り返りを行い、地域の多様性、住民の意識やニーズ、各地域における課題解決の取組等について認識を深め、持続可能な地域の未来の在り方、国と地方との関係、行政の役割や公務員の在り方を深く考察する機会となりました。

※ 研修員の声

・人口減少が著しい過疎地を訪ね、厳しいながら地域の魅力を最大限生かそうという姿勢に驚かされた。国の施策

が必ずしも自治体の実情に合っていないことも感じた。  
 ・地方の実態、苦勞、奮闘を肌で感じるとともに、地元を愛する情熱に刺激を受けた。  
 ・福島被災地を訪問し、原子力を含む複合災害からの復興の道のりの長さを実感した。  
 ・農業体験等の実際の作業を通して、地域の実情を深く心に刻めた。国のために働く志を改めて強く思った。



(上写真) 自治体職員を交えての討議・発表



(上・右写真) 農業体験の様子

研修を終えて

研修員へのアンケートでは、この研修について「大変有意義」又は「おおむね有意

義」とする割合が九九%となりました。一方で、地方自治体等の現場での研修期間をもっと長く設定して欲しい、より幅広いテーマを取り上げて研修期間をコロナ禍以前のように充実させて欲しいとの声が多数ありました。こうした声も踏まえつつ、今後とも、初任行政研修の目的である国民全体の奉仕者としての自覚、国民全体の視点から施策を行うための基礎的素養・見識を養い、研修員相互の理解と信頼を深めることができるよう、引き続き努めてまいります。最後になりましたが、ご指導いただいた講師の皆様と、各府省の研修担当者及び研修員の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

※ 研修員の声

・様々な講義を受け、仲間と対話することで、自分が行政官として何をやりたいか、何を意識すべきかを改めて自覚できた。  
 ・他省庁の仲間と繋がりができ、政策や物事に対する様々な考え方を体得できた。  
 ・地方研修や仲間との議論を通じ、自らを客観視し、公務員の在り方を深く考えた。  
 ・カリキュラムがとても充実していた。一方で、限られた時間で議論を深めることの難しさも感じた。  
 ・横の繋がりを今後も大切にしていきたい。